

地域医療の現場から



高齢者に優しい 医療の提供をめざして ～職種を越えたチームサポート～

国保八代市立病院 事務長 松本浩

病院の概要

- 設立年月：昭和30年4月
- 許可病床数：96床（感染症30床）
- 入院基本料：15対1
- 職員数：64人
（医師6人、看護師39人）



地域医療の一翼を担う

当院は、八代ICから車で3分の場所で、九州三大祭りの一つである八代妙見祭（11月22日～23日）が開催される八代神社のすぐ近くにあります。

開設は昭和27年で、八代郡宮地村立宮地病院（病床30床）としてスタートし、昭和30年、宮地村が八代市に編入合併され、その後、昭和42年に名称を国民健康保険八代市立病院に変更し、現在に至っています。

主な診療は、内科・外科・呼吸器科・循環器科・消化器科ですが、八代圏域では唯一結核病床を有し、排菌患者の治療機関として、結核撲滅をめざす政策医療の一翼を担っています。



八代妙見祭と祭りの人気者“亀蛇（ガメ）”

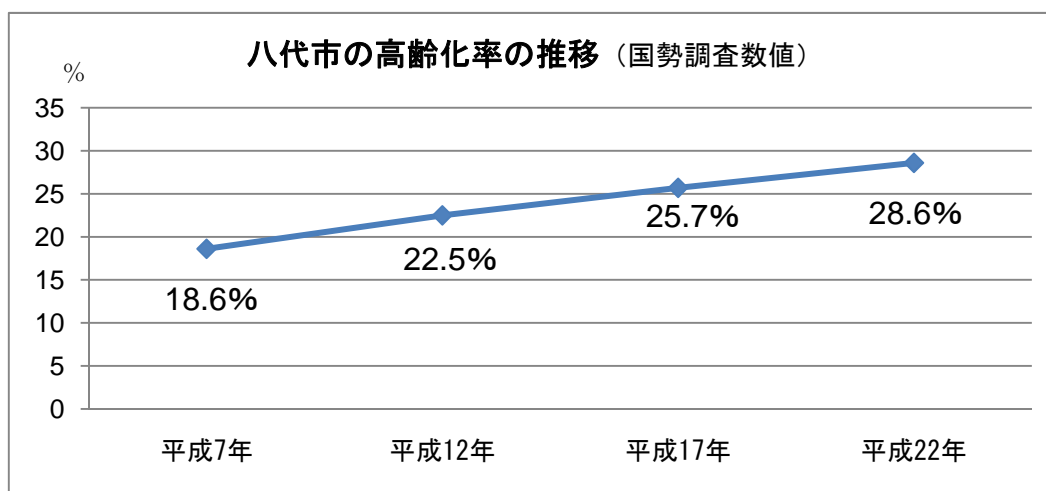
高齢者に優しい医療の提供

八代市の総人口のうち、65歳以上の高齢者が占める高齢化率は、平成7年の18.6%から、平成22年には28.6%と、15年間で10ポイントの増加を示しています。

また、将来推計人口における平成32年の高齢化率では、34.3%との予想がされています。

このように、高齢化社会のますますの進展により、高齢者にとって安心安全な医療・介護の提供が求められています。このため、本院も含め、八代医療圏域には多くの医療機関や介護施設がありますが、医療機関と介護施設との連携をさらに深め、高齢者に優しい医療・介護の提供を行っていく必要があります。

本院の患者統計を調べてみますと、平成23年9月の外来患者のうち、65歳以上の高齢者の方が全体の73.6%を占め、平均年齢は71.4歳となっています。また、入院患者では、高齢者の方が94%、平均年齢では、82.8歳となっています。



栄養サポートチームの取り組み

本院の入院患者のおよそ4分の3は高齢者であり、また同時に、肢体に障害があったり、経腸栄養管理・高カロリー点滴管理を必要とする状況です。

このため本院では、平成21年にNST（栄養サポートチーム）稼働施設認定を受け、チーム医療による患者の疾患治療・褥瘡予防治療に取り組んでいます。

チームは職種の壁を越え、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師のメンバーで組織し、患者お一人お一人の情報を共有するとともに、週1回それぞれが患者の栄養状態を評価し、適切な栄養管理を行って、治療効果を高めています。

高齢化社会の進展とともに、将来においても本院の入院患者の多くが高齢者と予測されます。今後も、チーム医療に力を注ぎ、入院患者と家族に優しい医療の提供を行っていききたいと思います。



NSTカンファレンス（左）と回診の様子

